

## 桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

昨日（9日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が行った降灰調査では、東桜島町から桜島赤水町付近にかけて特に降灰の量が多く、また、野尻町（桜島国際火山砂防センター付近）では、火山灰に混じって直径 1cm 程度の火山れきが確認されました。また、鹿児島市内及び周辺で行なった降灰調査や電話による聞き取り調査では、広い範囲で降灰を確認しました。

本日（10日）、気象庁機動調査班が鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、昭和火口の東側約 1km の範囲に火砕流が流下した痕跡が確認されました。昭和火口の形状に特段の変化は認められませんでした。

昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km を超えた居住地域近くまでの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

### ○概況（図 1～8）

昨日（9日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が桜島島内で行った降灰調査では、東桜島町から桜島赤水町付近にかけて特に降灰の量が多く、また、野尻町（桜島火山砂防センター付近）では、火山灰に混じって直径 1cm 程度の火山れきが確認されました。

鹿児島市内及び周辺で行なった降灰調査や電話による聞き取り調査では、薩摩半島の広い範囲で降灰を確認しました。

本日（10日）、気象庁機動調査班が鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、昭和火口の東側約 1km の範囲に火砕流が流下した痕跡が確認されました。昭和火口の噴火で火砕流が観測されたのは、2008 年 2 月 6 日の噴火で約 1.5km 流下して以来です。昭和火口の形状に特段の変化は認められませんでした。

※この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。  
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用し（承認番号：平 20 業使、第 385 号）、『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号：平 20 業複、第 647 号）。  
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）、福岡管区气象台ホームページ（<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>）で閲覧することができます。



図 1 桜島 9日16時20分頃の鴨池新町付近の状況



図 2 桜島 東桜島町付近の降灰の状況



図 3 桜島 野尻町付近の火山れき



図 4 桜島 降灰調査地点図



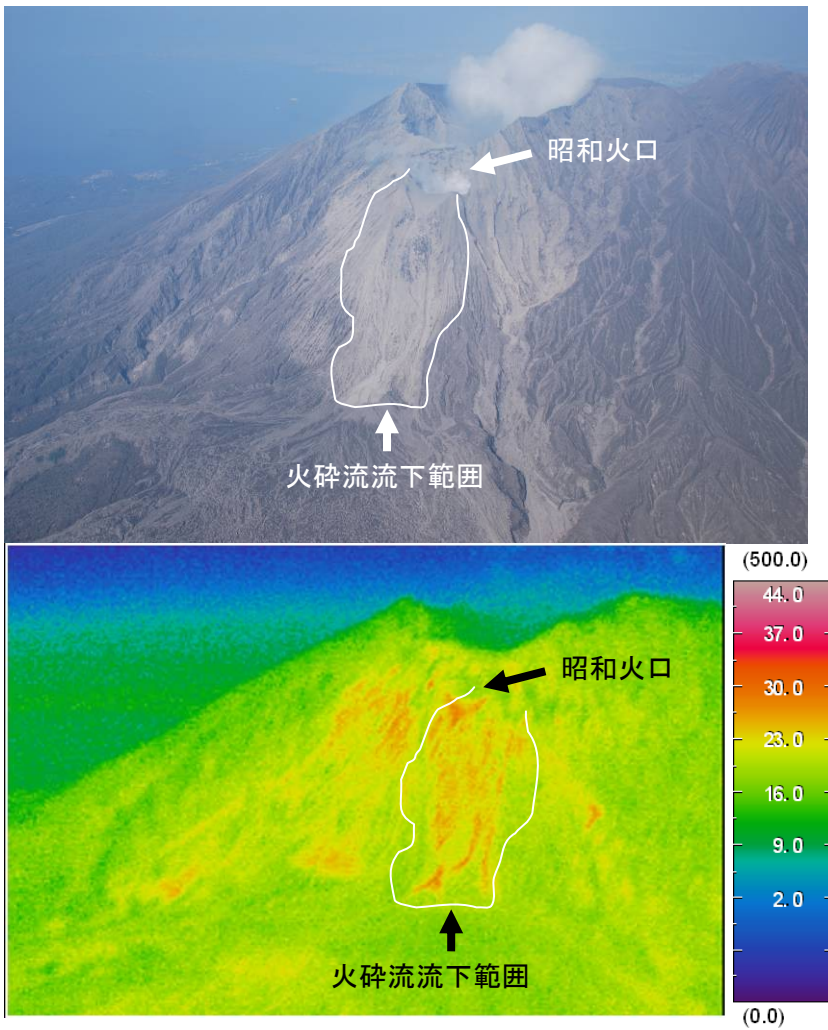


図 5 桜島 東側上空から撮影した昭和火口周辺の様子（上段）と赤外熱映像（下段）

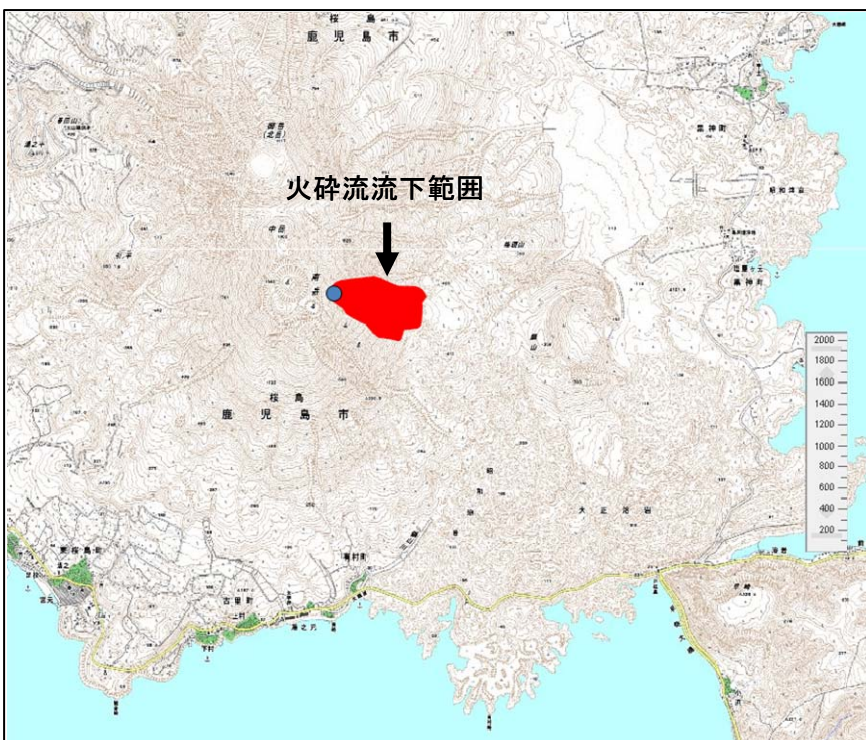


図 6 桜島 火碎流の流下範囲



図 7 桜島 昭和火口の状況（上段：2009 年 4 月 10 日 下段：2009 年 3 月 10 日）



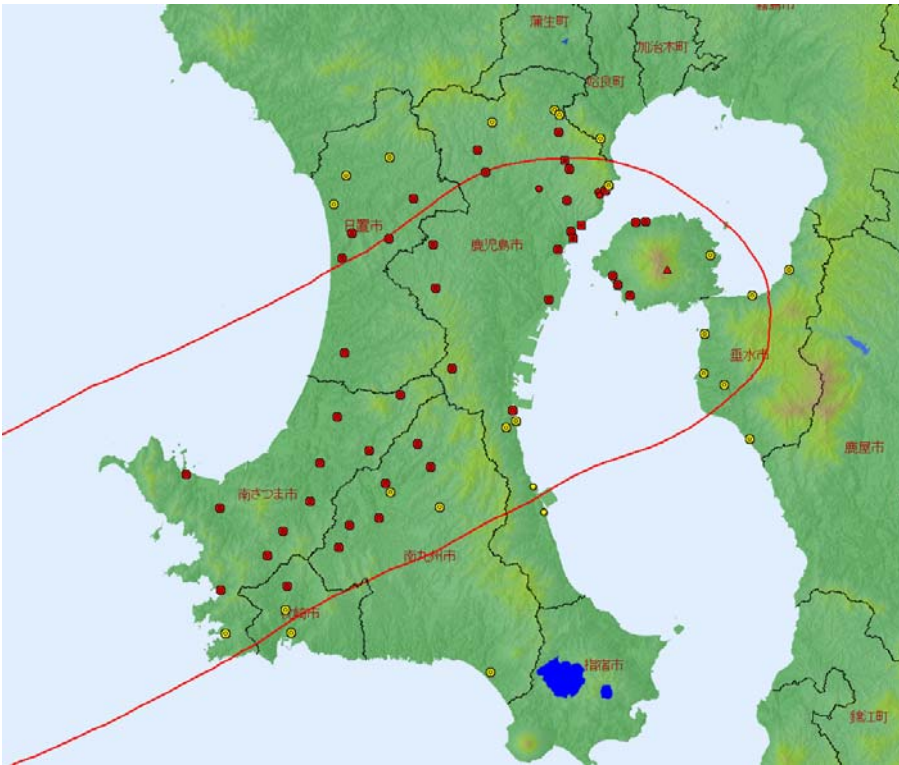


図 8 桜島 9 日の噴火に伴う降灰分布と降灰予測

- : 降灰があった地点
- : 降灰がなかった地点
- : 降灰予報で降灰が予想された範囲